

令和5年度 動物実験委員会報告

第1回動物実験委員会

1. 日時 令和5年5月22日（月） 13:30 ～ 14:10

2. 場所 第2会議室

3. 出席者

委員長 服部 力 研究ディレクター

外部委員 小林秀樹 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
動物衛生研究部門 バイオセーフティ管理役

内部委員 小林 功 企画部長
島田卓哉 野生動物研究領域長
津脇晋嗣 研究管理科長

事務局 上村 巧 研究管理科
掛川弘一 研究管理科

4. 議題

1. 動物実験計画書の審議
2. 動物実験履行報告書の審議
3. 自己点検及び評価書の審議
4. その他

5. 概要

議題1、2

動物実験計画書（新規及び継続）および履行報告書の審議を併せて行うこととなった。

新規課題「飼育シカを利用したシカの採食特性の解明」については問題なく承認された。

新規課題「「木の酒」の食品としての安全性を確認するための経口毒性試験」については、急性毒性、反復経口投与試験 仕様書の③投与に関して、「適切な絶食後」の絶食期間を明記しておく修正を行うことを条件に承認された。

継続課題（一部修正）「アカネズミ食性解明のための安定同位体比分析試料としての採血」については、履行報告書ならびに計画書ともに問題なく承認された。

継続課題「都市に生息する野生動物のストレスを定量化するために体毛コルチゾール濃度は有効な尺度となるか？」については、履行報告書に問題はないものの、飼養しているクリハラリスが高齢となってきていること、外来種であるため放逐することができないことを考慮して、実験計画書に安楽死を行う飼養終了時期の判断を明記するようとの意見が出

された。

終了課題の履行報告書「チアゾリン化合物に対するニホンジカの行動を確認するカフェテリア実験」については、計画時から問題がなく、履行報告書の内容についても問題ないことから承認された。

議題 3

「動物実験等に関する自己点検及び評価報告書」について報告どおりに承認された。

「動物実験等の実施状況」については、3件が実施され1件のみが所内の飼養施設で実施されたものであり、1件は外部機関で飼養された動物を使用、さらに1件は野生動物を捕獲して実施されたものであることが説明された。提出した表について、外部機関で飼養された実験と野生動物を捕獲して実施した実験を明確に区別するよう指摘があり、但し書きの括弧の種類を変えて区別できるよう修正することとした。

議題 4

動物実験に関する外部機関による検証について、外部委員から情報提供をいただいた。近隣の研究所や大学等での外部検証の実施状況や森林総合研究所での動物実験の実施状況を踏まえて議論され、農林水産省の指針は一般的な事項にとどまっていることなど統一的な基準が少ない中、外部検証実施の要・不要を画一的に判断することは困難ではないかとの考えが上がった。また、外部委員から森林総合研究所の規程は正しく設けられており、実施されている動物実験も適切であるとの評価をいただき、新規に飼養施設を設けた動物実験を開始する際等の必要な時に外部検証に限らず第三者による外部評価を受けることが適切ではないかとのご意見をいただいた。

委員会後の措置

指摘事項に対応した後に委員長判断で承認することとなった新規課題1件及び継続課題1件については、適切に修正され委員長の確認を経て承認された。

令和5年度第二回動物実験委員会

1. 日時 令和6年2月21日(水)～28日(水)

2. 場所 書面審議

3. 出席者

委員長 服部 力 研究ディレクター

外部委員 小林秀樹 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
動物衛生研究部門 バイオセーフティ管理役

内部委員 小林 功 企画部長

島田卓哉 野生動物研究領域長

津脇晋嗣 研究管理科長

事務局 上村 巧 研究管理科

掛川弘一 研究管理科

4. 議題

(1) 動物実験計画書の審議(新規) 1件

1) 研究課題名: 鳥類の渡り経路解明のためのロガーの装着と遺伝子解析のための採血
動物実験責任者: 青木 大輔

5. 概要

(1) 動物実験計画書の審議

申請のあった実験計画書1件について、修正はなく全会一致で承認することとなった。委員から以下の点について留意するよう指摘があり配慮事項として実験責任者に伝えた。

「ロガー付設後に放鳥された個体の管理が出来ないことから、ロガー装着に用いた紐や部品が体の一部に絡むことの無いように正確確実に処置すること。特に小型の野鳥は種により体形(割合)が大きく異なると思われる。また、未解明な部分かもしれないが、野鳥の生態や生理行動において、ロガー装着個体への非正常的な接触、あるいは忌避反応等の有無にも留意すること。」